



第49号

平成4年6月25日
発行所
茨城県東茨城郡
内原町鯉淵5965
鯉淵学園同窓会
☎319-03 TEL.0292-59-2811
振替口座 宇都宮3-1632番
印刷所
佐藤印刷株式会社

学園の近況と 学生募集協力をお願い

教務部長 安藤 義道

一、学園の近況

この一週間余り、茨城県には雷雨注意報が続きました。一部では雹が降り、農作物にも大きな被害が出ました。幸い学園には被害はなく、農作物も順調に育っています。圃場では、今日も学生諸君が実習に精を出しています。

この春にも本科九十一名(内三名は他県農業大学校からの編入)、普及専攻科三十八名(内二名は海外研修からの復学)合わせて一二九名の学生諸君が加わり、おかげさまで学園キャンパスは若さで沸き返っています。この時期は新歓行事も終わって、自治会前期役員を選出、そして寮替えと、学生諸君にとってはあわたたしい毎日だと思います。

二、推薦入学・優先入学の結果について

入学と優先入学の制度を導入しました。(後述)その結果、農業科には十六名、生活栄養科には五名の応募がありました。選考委員の先生方の厳重な審査の結果、幸い全員が合格となりました。殊に優先入学は同窓会関係者が推薦する者を歌い文句に導入しました制度でしたが、おかげさまで二十名ものご推薦を頂きました。改めて御礼申し上げます。

三、今年もご推薦を!

他方、卒業生は本科七十三名、普及専攻科三十六名の合わせて一〇九名が巣立って行きました。彼らの進路は農業自営が9名、農協(県連・単協合わせ)十二名、その他農業団体六名、公務員十五名(改良普及員十一名、第二種国家公務員一名、市町村等職員三名)、民



事務局長就任挨拶

岩手県出身 七期 岩持 文彦

同窓会にあまり関わりのなかった私が、この度、事務局を担当することになりました。初めの考えとは、かなり懸け離れて、相当重荷です。

ことのおこりは、平成二年四月、同窓会活動の活性化方針を推進する会長の要請をうけて、茨城県支部の再編成に、首を突っ込んだのがそもそのはじまりです。

学園創立五十周年を迎えようとしている今日、同窓会組織がぎくしゃくして滑らかに機能せず、会長はじめ学園在職卒業生の苦悩は深刻で、手助けして負担を軽くしてやりたい思いに駆られてはおりました。学園の職員としての仕事の合間をみながらの事務処理は、並大抵の業ではありません。週休二日制に移行しつつある時代風潮に逆っての繁雑振りでは、正常な発展は望めませんし、なによりもまして、会員が納得する会の運営は図れないというものです。

私達は、学園創立以来、これまでの実績を誇りとして更に積み重ね、未来永劫、後世に引き継いで行かなければなりません。ここで私は、定年退職を転機として一代奮起、手を携えて扶け

決心いたしました。

素人の私に、これといった考えがあるわけはありません。大会決定事項を、会長の命に従って事務処理することになりますが、要は、会員の考えを、どのように会の運営に反映させるかを、工夫する役目かと心得ております。

全国に散らばる五千七百余名の殆んどが、年数回の会報と会費納入の繋り程度で、会の活動を実感するまでには至らないかと思えます。そんな時、今度発行された寮史並びに会員名簿の購入申し込みが、未だかつてない伸長を示しているという……。なによりの救いです。

とにかく、多くの会員に、会の機関を利用していただき、活動に参加していただくことが先決です。差し当り、私達の唯一の情報機関である会報の利用率を高めることから工夫しようではありませんか。身近かな出来事、意見、短文、長文そして研究発表など、どしどし投稿し合って、相互の親近が図れば、毎日の生活に、また一つ、楽しみが増えるのではないのでしょうか。

全国、各界にご活躍の同窓会員の皆さん、精いっぱい頑張ります。ご支援、

二ヶタに達したのは普及専攻科が発足してはじめてのことでした。
このように、三年ないし四年の学園での学習、寮生活での交友を通して学生諸君は成長してまいります。どうか本年も、多くのご推薦をお待ちしております。

四、平成五年度本科学生募集要項

- (1) 募集人員
本科(三年制)
① 農 業 科 八〇名
② 生活栄養科 四〇名

(2) 出願手続

出願者は下記書類に選考料を添えて鯉湖学園教務部に提出すること。

- ① 入学願書
② 身上調査書
③ 健康診断書

(平成五年三月卒業予定者は高校発行のものでもよい)

④ 課題による作文

⑤ 高等学校の調査書(特に各科目の評定、学習成績概評、成績段階別人数、所属する科(学年)の総学生数、行動および性格の記録等を明確に記入すること。)

⑥ 現住地の市町村または農業協同組合長などより、家庭の事情や本人の将来の希望などを含めて推薦を得たものはその推薦書。

⑦ 選考料 二五、〇〇〇円(為替にして入学願書に同封のこと)

※①②④は本学園所定の用紙を使用

(3) 願書受付期間

平成四年十一月二十一日(土)より平成五年二月十九日(金)当日の消印あるものは有効までの期間。

(4) 選考・発表

願書の受付締切後、書類について選考し、結果を二月二十七日(土)に発表する。

(5) 備 考

学園要覧・願書など所定用紙の請求は、鯉湖学園教務部または農民教育協会に問い合わせること。

五、鯉湖学園優先入学案内

- (1) 入学定員
・ 農 業 科 定員の約10%
・ 生活栄養科 定員の約10%

(2) 推薦条件

ア 平成五年三月高等学校卒業見込者及び平成四年三月高等学校卒業者のうち学力人物について本学教職員ならびに同窓会関係者が推薦する者。

イ 学力は、高等学校調査書の概評がC段階以上の者で、全科目平均が3.0以上、2以下の科目が3つを超えない者。

右記ア、イの条件の他、次の各料の推薦基準を満たす者とする。
推薦入学基準

① 農業科

ア 農業の後継者になろうとする者。

イ 農業者及び関連産業で指導者あるいは技術者になろう。

ウ 国語、生物の素養をもち、社会に貢献しようとする者。

② 生活栄養科

ア 農業の後継者になろうとする者。

イ 農村生活の指導者あるいは栄養士になろうとする者。

ウ 食料と栄養の諸問題に関心をもち、社会に貢献しようとする者。

(4) 出願手続

十一月二日(月)～十日(土)

(5) 合格通知

十一月三〇日(日)

(6) 入学通知

十二月十日(木)～十六日(水)

会長病氣入院中

同窓会長の渡辺正信氏は、昨年より体の不調を口にして居りましたが、二月頃臍臓にポリープがあることが判明、三月一日筑波大学病院に入院されました。

今年に入って激しい腰痛を訴えておられましたが、卒業式が終わってからと、入院を遅らせておりました。

三月下旬から放射能治療に入り、胃が影響を受け、固形物を口から取れないため点滴による栄養摂取に頼っています。



ますが、五月二〇日に見舞ったときは、病人とは思えないような血色の良さで、痛みも無く体重は二キロも増え、時々散歩をしたり、朝夕窓を開けて五〇回づつ深呼吸をし、必ず病気を克服してみせると、見舞客が圧倒されるほどの元気でした。

六月三日退院され、週一回の通院を含め目下自宅療養中です。食事もお粥食がとれるようになりましたが、しばらく休職されます。
会員の皆様のご激励もお願いいたします。

理事会学園の改組検討始める

四、五年前から学園の時代に即した改組に関する意見が、卒業生等から次いで寄せられておりました。学園では平成元年よりその方針を決定し、資料も集めて、昨年草々から教授会を中心に原案を検討して参りました。

その途中経過は、昨年十一月の同窓会大会の席で、松本学園長より「学園の現状と将来構想」として、教授会を中心に検討している基本的な考え方について話され、卒業生の大きな期待を集めました。

学園に於ける検討は更に続けながら、三月下旬協会の定例理事会に於いて学園長より「改組検討の経過報告と協力要請」がなされたことから、この件を理事会が正式に取り上げることになりました。理事会は取敢えず、理事長の諮問機関として「鯉測学園改組等に関する検討委員会」を設置することを決め、早速その準備に着手しました。

二、理事長の势力的な活躍により委員が決まり、資料作りが行われました。理事長はその為に農水省や農業団体には幾度も足を運ばれ、学園にも来られました。頭の下がる思いでした。

委員はイロハ順に（敬称略）
池田昭雄（全国農業会議所専務理事）

江川友治（元・農水省農業技術研究所長）

角中正也（家の光協会専務理事）

笠松健一（全国共済農業協同組合連合会専務理事）

染谷 一（農業者・鯉測学園二十四期卒業生）

田中恒久（農林中央金庫専務理事）

鳥居 匡（全国農業協同組合中央会常務理事）

福丸博房（鯉測学園同窓会副会長・九期卒業生）

増田萬平（全国信連協会専務理事）

山極栄司（全国農業改良普及協会会長）

山下洋治（全国農業協同組合連合会専務理事）

同窓会からは渡辺会長病氣療養中につき福丸副会長に代理をお願いし、染谷さんは、二、理事長の要望で若手の農業者ということで有志相計らって推薦しました。

六月五日、第一回の委員会が鯉測学園で開催されました。午前は学園内の視察、午後準備された資料に基づき現況分析がされ、改組の方向が探られました。

当日は、農水省から農業後継者対策

室長の和田宗利氏が出席され、大きな関心と期待を寄せられました。

理事長としては、この後委員会の回を重ね年内に結論を出し、理事会の議題としたい意向のようです。これらの結論が出る前に、卒業生の皆様方には活発な意見を事務局にお寄せ下さい。理事長にお伝えしたいと思ひます。

道

鯉測学園の名称変更について、意見があるようです。これまで耳にしている候補を上げてみます。

- （専門学校）鯉測農學院、（専門学校）鯉測農業科學院（園）、鯉測科学農業学院（園）、鯉測学園農業科學院、鯉測農業科学専門学院、農業専門学院、鯉測学園、鯉測農業学園、鯉測農業アカデミー、鯉測ルーラルプロモーションカレッジ、鯉測学園（現状）等です。
- 卒業生の皆さんは、これらのことからどんな事を考えられますでしょうか。ご意見をお寄せ下さい。

常任委員会報告

第二十四回大会において一任された五上周年記念事業の実施について、その骨子を主題に、六月十三日（土）、同窓会館において開催され、早期発足を内容とした事務局案をたたき台に審議の結果、

協会及び学園の決定を待っての同時発足を原則とし、その間、全国支部長会議等を開いて趣意の徹底を図る方針で確認された。

中でも、同窓会側発起人としては、会長、副会長、常任委員、支部長及び各期（卒業期別）代表等幅広く参加を求めることで合意された。

更に、発起人の中から、実行委員を選出し、きめ細かく会議を開いて、事業の円滑な推進を図る方針である。

その他、四年度新入生入学状況、会計中間報告、分収林の管理及び学園改組検討委員会状況等について別掲のとおり報告され、質疑、承認されました。

- 出席者は次のとおり。福丸博房（副会長・九期）、高橋隆三（常任委員長・九期）、石持文彦（茨城・七期）、桶川正夫（茨城・十三期）、船橋和江（茨城・十九期）、篠原要一（栃木・十期）、白土忠雄（東京・九期）、以下学園、西村典夫（四期）、砂田義雄（五期）、坪野敏美（七期）、山本英治（二十一期）、河内雅幸（四十六期）

事務局長交替

事務局長は、三月、四日の常任委員会において、四月一日より坪野から岩持文彦さんに交替することを決定しました。岩持さんは、七期の卒業で茨城支部所属（吉河市在住）現在支部長を勤めてもおられます。



新任の挨拶

食品加工助教授 杉山博茂

私をはじめ鯉渚学園へ出勤したのは、一九九二年一月六日であった。

その日私は、車で霞ヶ浦に隣接する阿見町の私の自宅より、一路学園のある内原町へ向った。これまでどんなに寒い日でも、私のボロ車は、三十分程走行するとエンジン快調となるのだが、その日は異常であった。内原町まで、自宅より、一時間要したが、外気が冷たくて、エンジンの調子は快調にほど遠かった。その様な事は、どんな寒冷地を旅行しても、これまでになかった。私のはじめの経験であった。

学園に到着し車のドアを開け、学園の大地に足を踏み入れた途端、寒い事寒い事、筆舌で言い表わせなかつた。

以前学園の先生方より、「内原は寒いですよ」とは聞いていたが、聞きしにまさる寒さとは、この事だと知った。この寒さは、ドイツの寒さ程ではないが、どこか似ている。ハム、ソーセージを作るには、丁度良い寒さである。すばらしい土地である。鯉渚という地名より、鯉

渚の里という方が合っていると思った。

木々が立ち込める学園の広々とした敷地内に入ると、歴史と伝統が肌で感じ取れた。その雰囲気の中に、今年新たに、ドイツのムードをかもした建物物が完成しました。この建物は、平屋建て、屋根が白、外壁がレンガ色です。鯉渚学園の同窓生の皆様が記念植樹された木々に、良く調和しています。

その建物こそ、これからの鯉渚学園のシンボルとならんとしている畜産加工室です。私は、その部門の担当者として就任しました。学生諸君は、その加工室で、毎日喜々として実習に励んでいます。さらに興味を示し、本場ドイツで勉強したいという学生が現われるなら、私は光栄です。

学生諸君が鯉渚の味を作り出し、ぜひ、先輩の皆様味わって頂きたいという時が来ると思われます。どうかその節は、御付き合いの程、よろしく御願ひ申し上げます。

簡単ではございますが、諸先輩の皆様への挨拶にかえさせていただきます。

一九九二年六月

同窓会の事務局長を、学園在職者以外の者が引受けることになったのは、学園始まって以来のこと、在職卒業生が組織(総務部、組織部、情報部)に従って仕事を分担していかないと大変かと思われまふ。常任委員・各支部長の方々は勿論一般会員の絶大なるご協力ご支援も是非お願い致します。

「学生寮史」 残部お分けします

昨年十月八日年越しの懸案であった寮史を発行しました。大変好評でした。編集委員長の涌井先生が、昨年二月末の日本教育史学会でその概要を発表し、沢山の関心を集めました。

発行を決定した当初は、三百冊位の注文を予想しただけでしたが、最終的に九百冊近くに達しました。しかし、その内送金のあったのは約六百冊で、八百冊印刷、贈呈分を差引き約百冊が残っています。折角注文しながら送金を忘れた方、送金あり次第お届けします。早い者勝ちです。品切れの場合の代金は会費に振り向けさせていただきます。

送料共 一冊 八千円(会員のみ)

会員名簿発行 残部お分けします

同窓会員名簿は、二月二〇日に発行致しました。お約束より四ヶ月遅れ大変ご迷惑をおかけしました。重ねてお詫び申し上げます。その代わり大変立派にしてお届け出来たと思っています。特に、会員の皆様のご協力に負うところ大きかったです。事務局も頑張りました。住所判明率九八%に漕ぎつけました。かつてない成果です。また、表紙裏には学園の航空写真を掲載しました。広告も掲載しました。ご活用下さい。

発行冊数二千四百(注文二千八百、引当て予定四百、予備二百)、これまでの約二・五倍。名簿希望者は、二千一百余あり送金のあったのが一千八百でしたので、二百の予備を印刷しました。先着順でお分けします。一冊、送料共で三千五百円です。

これまでの住所調査では、明らかに出来なかつた方の住所は、学籍簿の住所を基に電話で追跡しました。何十年ないし十何年ぶりにこの同窓会報を受け取った方が五、六百名おられるはず。

住所は時間が経つに従い変更があり、不明者が増えていきます。四月に転勤され住所変更した方は必ず住所変更届けを事務局までお寄せ下さい。

インドを訪ねる旅に参加して

ワクイ ヨシロウ

三月上旬の二週間、北インドの農村地域を訪ねるスタディーツアーに参加する機会がありました。

栃木県にアジア学院という小さな民間学校があります。各国のNGOと連携してアジア・アフリカ・南洋州・南米地域の農村指導者を養成するボランティア・スクールです。今回の旅は、このアジア学院の企画で、卒業生を訪ねるものでした。メンバーは一六名でした。

鯉洲学園でも数年前から海外の人たちの研修を受け入れるようになって、職員として見聞が必要になっていました。インドが私には初めての海外旅行でしたが、百聞は一見にしかず、確かにこの目で聞き出すことの意義を実感する旅でした。

アジア学院の卒業生に案内してもらった都市や農村で、人々の暮らしの力になろうと献身している人々に会い、感じたことを述べてみたいと思います。

森林がない

ガンジス河流域を縦横に四千キロくらい旅し、農村を一〇数カ所訪れましたが、どこに行っても森林が見あたらないことにまず驚きました。私たちが旅した地域では、一〇〇年ほどの間に

燃料として木を使い尽くしたそうで、大地は乾いて荒廃しています。不足する燃料のほとんどを牛糞に求め、稲・麦のワラはその牛の餌に消え、木の葉もないのですから、土を維持する有機物がほとんどないという世界に、私はひとつの恐ろしさを感じました。まさに人口問題と砂漠化の実態をまのあたりにした訳です。

意志ある人々は、植林の努力をされていましたが、乾期の枯死率が高く、山羊や牛の食害もあって、かつての森林資源を取り戻すには途方もない努力が必要と思われれます。植林事業は農村の人々の働き口にもなるというところで、この努力が継続されて、緑をたくさん取り戻すことを祈らずにいられません。

天気に頼る農業からの脱皮

雨期の天気に頼る農業からの脱皮をめざして、様々なプロジェクトが進行していました。キノコの栽培や果樹の導入、ため池をたくさん掘って雨期の水を貯え、この水を利用した水稲・麦・ナタネ・野菜作の拡大、2・3毛作(あるいは混作)やマノ作物との間作などでした。手労働が主の農業ですから、水利整備はとて大変でしょうが、世界各地で試みられた本来の農業技術を

駆使できる素地があり、これからの発展が期待できます。ただ、地力を高めるための有機物をもっと確保すべきことと、婦人や子供の労働負担率を軽減させるプログラムが必要と思われました。

農村指導者の多くが野菜栽培品目の拡大に力を注いでいました。これは、農家の現金収入を増すためと、農民自身の栄養改善を考えての自家菜園整備でもありました。土は固く、乾期の灌漑水不足の中ながら、地道な努力が何えました。各地でいただいた手料理の野菜はどれも味わいがあり、日本の淡白な「商品野菜」に無いおいしさがありませんでした。

女性の地位の改善、教育の充実

案内されたいくつかの民間団体(農村開発に携わるNGO)に共通する大きなテーマが、婦人の地位向上と子供の基礎教育充実でした。ヒンドゥー社会の歴史的慣習として女性の地位が低く、貧困の中では女児の生存率が低いということに大変驚きました。ある地域では、識字率は男性が30・40%に対し女性性は4・5%だといえます。ソシアルワークとして、女性の成人教育と職業訓練により、社会的にも経済的にも自立させる運動が中心課題となっていました。農村の開発というとかく農業技術改善や経営改善ととらえられがちなのですが、そこに住む人々の社会環境を整えることなくして改善にはな

り得ないことがよく分かります。時間はかかっても、教育の充実が最も必要なことで、その課題に取り組む人々の献身と情熱を強く感じましたので、きっと明るい未来のあることでしょう。学校の子供たちや職業訓練を受ける若い女性たちの眼の輝きに、むしろ私が勇気づけられるほどでした。

情熱をとりもどせ

日本の社会ではあまり見かけなくなつた、身の内からほとばしるような社会改革の強い情熱をもった青年や婦人に多数会うことができました。感動の毎日でした。

この旅で最も印象に大きく残つたのが、キリスト教の人々の愛の強さ・深さでした。旅の前までは、宗教主義(あるいは狭い宗派主義)に嫌悪さえ感じることがもありましたが、今では理解が深まりつつあります。TRDPという団体を訪れた時、主催者の一人、ソマーズ氏が「まずヒューマニティ(人間性尊重)、生活を支えて人間性をささえること」がキリスト者としての使命だと述べていました。宗教・宗派はともかく、その考え方に共感できます。人々が、人間らしく暮らせることには貧富・民族を問わずこの国民にとっても至上命題でしょう。

ベンガル、ビハール、UP州の各農村部で農村開発に携わる人々やアシラムという共同体で献身的に動くシスターやブラザー、そしてマザーテレサ

学園職員の移動

の施設など都市のスラム問題に尽力する方々に会い、私の心は洗われる思いでした。日本人の一人としては、宗教アレルギーの克服が必要なことを感じました。

旅はしてみるもんだ

インドは牛の国でした。いたる所ウチ・牛糞の国でした。猪のような豚のいる国でした。おいしいカレーの国でした。豆料理の国でした。スパイスの国でした。三輪車の国でした。凄いパワーの自動車運転手の国でした。サリートのうつくしい国でした。綺麗な女性性の国でした。率直でやさしい人々の国でした。

そして、インドはヒンドゥー教の国でした。カースト制の末だに厳しい歴史の国でした。カースト最高位のブラーミンと杖を並べて同宿し、日本のかつての非人にも相当するアウト・カーストの子供たちとひとときを遊んで、身分制度の何たるかを体験しました。しかし、やはり同じインドの人々でした。私と同じ人間でした。畑に散らばった乾いた人糞は、私のものと同じでした。私も畑で……しました。

カタコトの英語でリーダーたちと会話し、旅の前に必死で自習したヒンドゥー語で村人や車中の人々と交歓して、旅はしてみるもんだと、つくづく思いました。

(退職)

助教 高橋 隆 三 二月三十一日

助教 津田 渉 二月三十一日

助手 鈴木 由美子 十二月三十一日

技師 清水 政 浩 三月三十一日

主事補 鈴木 きよ子 三月三十一日

主事補 荒山 美智子 三月三十一日

高橋先生は、昭和三十年以来三十七年の長きに亘って、畑作機械化農場、酪農場を中心に勤務され三八年から講師、五二年からは助教として、五十七年から平成二年までは酪農場長を勤められました。この三月をもって停年退職されました。飼料作物の講義、実験、特別研究、農場実習、農場運営、更には教授会、運営会議を通じて学園の教育・運営のために多大の貢献をされました。四月からは自宅にあって、仕事一本のこれまでの人生の中で取戻してきたことを、色々やってみたくて言っておられました。自宅は茨城県西茨城郡友部町住吉一〇八八の一〇です。

津田先生は、六三年から講師、元年からは助教として農業経済学、農政学、英語、特別研究を担当され、業務は学生係三年度は学生係長を勤められました。僅か四年でしたが、いま行っている研究を完成したいと言っ意向で退職され、財団法人農村開発企画委員会に転勤されました。住所は土浦市港町二の九の二九の三、一です。

鈴木由美子さんは、助手として教務係で教材作成等の仕事を中心に勤務してこられました。学園四十一期卒業の池田信一さんと結婚され、茨城県稲敷郡新利根村柴崎三四五に住まわれるため退職されました。

清水さんは、酪農場で技師として僅か一年間でしたが、実習指導や農場管理に当たってこられました。家庭の事情で郷里の福井県に帰り、県の畜産試験場に勤務されるため退職されました。住所は福井県武生市文室町三五号二番地です。

鈴木きよ子さんは、正会員になられました。荒山さんは、管理栄養士に合格され、退職された後地元下館で管理栄養士として勤務しておられます。

(採用)
助教 杉山 博房 一月一日
技師 佐藤 利文 四月一日
助手 鈴木きよ子 四月一日
助手 佐藤由紀子 四月一日
助手 小野瀬宣子 四月一日

技師補 河内 雅幸 四月一日
主事補 高岡 里枝 四月一日
主事 清水 道夫 五月一日
杉山先生は、食品加工の講義を中心に、業務は学生生活部生活係を担当していただいています(別記事参照)

佐藤利文さんは、酪農場で学生実習と農場管理を担当しておられます。鈴木さんは、教務部学生係に所属し、教材作成の助手をしておられます。佐藤由紀子さんと小野瀬さんは学生生活部生活係に所属し、学生食堂を担当しておられます。

河内さんは、将来自宅の農場経営をすることになっていますが、勉強を兼ね酪農場で学生実習と農場管理に当たっておられます。高岡さんは、将来管理栄養士を目指し、学生生活部生活係に所属し、勉強を兼ね学生食堂を担当しておられます。清水さんは、永年の銀行勤務の経験を買われて、人数の少ない総務部で経理、庶務、その他出来ること何でもお願いすることになっていきます。

内部移動では、川井先生が生活係長から学生係長に、生活係長には中野部長が兼務されることになりました。夫々の事情で退職される方がありましたが、それを上回る採用もあり、内部移動も加えて万全の体制を整え新年度を充足させてあります。

畜産加工実習室竣工

この二月に国庫助成で畜産加工実習室が竣工しました。鉄筋コンクリート平屋建、面積一六八平方メートル、工費は内部施設共で五千六百万円余り。場所は旧購買部を取り壊し、園芸農場の建物



に面をそろえて建てました。外装はレンガ色に塗装したので、周辺の緑と良い対象となり、平屋ですがとても目立ちます。

食品加工論・食品加工実習は、これまでは生活栄養科のカリキュラムに在ったのみですが、今年からは農業科の学生にも農場実習の中で加工も実施することになりました。かつての農業科は生産実習重点でしたが、これからは加工・販売も農場実習に含めることになりました。

当面肉加工特にハム、ソーセージ、ペーコン等が主になります。平成三年四月から牛肉・オレンジが自由化されたこととも関連し、遅れ馳せながらこちらを先に整備することになったわけです。古い施設も健在ですので、加工実習は一段と充実されます。

担当は今年一月に赴任いただきました杉山博茂助教です。大学卒業後長いこと民間会社で肉加工を担当してこられ、この間本場のドイツに二回留学された超ベテランの先生です。

四年度入学式挙行

四月十日入学式が学園体育館兼講堂で挙行されました。

今年は春が早く、桜は丁度満開の状態です。新入生を迎えてくれました。

本学

志願者数 一〇六

入学者数 八八

農業科 七〇

生活栄養科 一八

出身校課程別には

普通高校 四六

農業高校 三六

工・商・家 六

出身県別には、茨城一四、福島一〇、千葉七、新潟・沖繩六等三三

都道府県より入学。

本科三年農業科編入学 三

大分県立農業大学校 一

兵庫県立農業大学校 二

普及専攻科 二

志願者数 四〇

入学者数 三六

復学者数 二

専攻別には

園芸 三二

畜産 三

食物 三

今年、高校卒業生数がピークの年で、昨年の本科入学生数八〇名に対し八名増、関係者一同大変喜んでおります。今年も卒業生の皆様から沢山の学生を推薦いただいたお陰です。厚く御礼申し上げます。

しかし、定員二二〇名に対して七三%の充足率しかなく、これからの大雪冬の時代を迎えるについて、皆様の一層のご支援ご協力をお願いいたします。

す。

なお、今年の二、三年生数は次の通りです。

二年生 三年生

農業科園芸コース 三九 四四

畜産コース 一二 一〇

生活栄養科 一八 一〇

合計 六九 六四

従って、学生総数は一年留年六名を加えて二六五名ということになります。

分収林の管理

二月一日関東地方に思わぬ大雪が降りました。しかも湿っていたため、雪は杉や檜の枝に付着し、木を倒したり途中から折るなど大被害をもたらしました。

当初分収林の管理は、平成四・五年年度の事業計画にもありましたように、今年度は檜が草に負けた地域に杉苗を補植すること、葛蔓の除草剤処理及び下草刈りを予定しておりました。

仕事は昨年の下草刈りをお願いした十四期の益子さんをお願いしました。杉苗を二百本補植する積もりが三百本になり、木起こしは全体の約七十%になりました。四月二十九日、五月五・六日の三日間に亘りました。

昨年は下草刈りをお願いしていただきながら、結果を視察する機会を作り得ておりましたが、今回は仕事をお願いする為現地に掛けました。かっ

て高萩営林署にお願いした下草刈りは、素人のためか混生する灌木はそのままの粗末なものでしたが、益子さんが熟練者を紹介して下さいましたお陰で、徹底した下草刈りがしてありました。六月、七月に葛蔓の除草剤処理をした後、八月に今年度の下草刈りをすれば一部を除きもう大丈夫とのこと。春に分取林に行き雪害の酷いところを見たときは、放棄したほうがよいのではとも思いましたが、和田前会長の御苦勞や、既に相当な投資をしてあることを思い起こして一層の管理をする事にしております。どうぞご理解をお願い致します。

三年度卒業式挙行

三月六日一〇時三〇分より平成三年度の卒業式が挙行されました。

この頃の気候の特徴として少し寒い日でしたが、農水省、茨城県、内原町、農業団体等の来賓を迎えて盛大に行われました。

卒業生数は、本科 七三名

普及専攻科 三六

合計 一〇九

本科卒業生中三六名は、四年度普及専攻科に進学しましたので、自営乃至就職したのは三七名、普及専攻科卒業三六名を加えた七三名が社会に巣立ったこととなります。

ので、大部分は郷里(出身地)に帰って活躍することになっております。

進路状況は

本科 普及専攻科

普及専攻科進学 三六

農業自営 七

普及員 一一

その他公務員 三

農協関係 七

その他団体 三

教育機関 一

民間会社 一〇

内外研修 五

その他 二

先輩諸兄姉には、是非彼等に声を掛けて下さり、ご指導ご鞭撻下さいませよう、また支部会等のときは必ず誘って下さいますようお願いいたします。

全卒業生数は、五、七四四名

(卒業証書番号の集計)
内訳は 本科 四、三三五

実科 三一

選科 一一一

特別選科 九六

研究科 六一

通信教育一、一〇〇

実科又は選科を終了して本科を卒業し直したり、本科を卒業して研究科又は通信教育を終了し直した方等一個人がダブルしている場合があります。従って、これは延卒業生数であって、人数

卒業記念品のお礼

四三、四四、四五、四六期卒業生の皆さんより、卒業時に記念品代をお預かりしてありました。四三、四四、四六期生には TENT を購入したいとお願いし、四五期生からは各教室に時計を取付けてほしいと申しつかけておりました。先日 TENT 二張りと壁掛け時計一〇個を購入し、時計は一・二号館の八教室及び情報教室と語学教室に設置しました。

大変有り難うございました。大切に有効に使わせていただきます。

(総務部長 坪野)

会報編集部よりお願い

毎回、支部会、同期会の楽しく、なつかしい話題を送っていたいただき、事務局一同感謝致しております。

しかし、どうしてもご多忙の方が多く、寄稿の数が少なく、紙面の充実に苦慮致す事も度々です。皆様の寄稿(写真も歓迎、写真はお返し致します)を、お待ちしております。

また内容は、妻帯募集でも近況報告でも、リサイクル、サークル呼びかけの原稿でも、同窓会報にふさわしいものなら何でも結構です。どうかより多くの寄稿をよろしくお願い致します。

会費納入にご協力を

会費の納入状況は、会報に毎回掲載していますが、最近の傾向特に平成二年度からの傾向として、終身会費の納入者が大変増えました。それ以前は制度はありましたが納入者は殆ど無かったのに、二・三年度は千四百七十七名中百八十二名で十二・三%、四・五年度に入って現在までのところ四百九十名中二百二十二名で四十三・三%と高率になってきております。

事務局としては大変有り難く思っておりますが、勿論年度会費三千円宛てを大切にしたいと思っております。

今年50周年記念事業を充足させるため着々準備を進めております。事業の直接経費は募金会計より支出することになります。その準備が必要で、会費納入について、より一層のご協力を切にお願い致します。

なお、振替え送金用紙の同封は、会費納入者には送らないようにしたいと思います。いま暫く全員に同封することをお許し下さい。